



ESDうべ推進協議会の活性化への提言（統合的運営について）

うべ環境コミュニティー 理事 薄井 洋基

ESDうべ推進協議会の活動は以下の二つの項目を達成するために活動を続けています。① 宇部市の地域に根ざした産官学民の協働により、子ども達の環境学習を推進し、成長する子ども達の生きる力を向上させる。② コミュニティスクールなど地域の社会人を巻き込んだESDを推進して、地域の特色を生かした「宇部方式」による人づくり・まちづくりを実現する。また、SDGsの実現を目指して、参画団体の協働を推進していこうとしています。所属団体はそれぞれのビジョン達成のための多様な活動を実施していますが、大きくは上記の人づくり・まちづくりを目指してESDうべ推進協議会の活動に賛同して、協力し合っています。ESDうべ推進協議会の体制図を以下に示します。

私は、ESDうべ推進協議会の活動活性化のために、所属団体が年度別活動報告書をまとめて協議会事務局に提出していただくことを提案します。年度別のまとめはA4用紙1ページに、団体のビジョン・その年度の活動実績・自己評価と次年度活動の方針などを記載するものとします。協議会は年度報告として各団体の活動のまとめ、協議会自身の活動のまとめ、更に全体としての自己評価を各年度末にまとめて外部に公表し、数年間隔で外部評価を受けることをお勧めします。

緩やかにまとまった所属団体が独自のビジョンを持って活動し、その活動成果を事務局が全体として統合して、協議会の活性化と発展につなげていくことは、大変気を遣う仕事だと思えます。自己評価・外部評価は事務局の負担を増すことになって大変だと思えますが、長い目で見て協議会の活性化に寄与するものと考えます。

所属団体のご理解と宇部の子ども達のESD活性化のための意欲が一つになって、ESDあるいはSDGsの実現のための大きい動きとなることを期待いたします。

ESDうべ推進協議会 参画ステークホルダーと体制図



今年度「銀天かたりば」の一環で第1号として、「こころの語り場」を宇部フロンティア大学の協力を得て、10月中（調整中）に同校の会場または市内の公共施設（調整中）で実施計画中です。お問い合わせは0836-39-8110（平日のみ）まで

今夏の猛暑は、地球温暖化の問題をより一層強く意識させました。すべての人が自分事として捉え、無駄なドライブを避ける、できるだけ省エネに配慮した生活を送りましょう！

--今年度の事業進展の遅れに焦りを感じる一理事

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央」バス停 徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



Home Page



facebook



X



NPO法人うべ環境コミュニティー

7月25日 宇部中央高校の探究活動でSDGsの海や水のことについて生徒15人が 浮田先生の回収された海ゴミを分別する活動に参加しました。

これまでは、校内での調べ学習にとどまっていたが、実際に学校の外に出て見たり触れたり活動することで、生徒は多くのことに気づき発見するなど、沢山の学びがありました。

思った以上にゴミは細々と分別が必要なことや、他県から流れ着いたもの、どれだけ多くのゴミが排出されているか、マイクロプラスチックの恐ろしさなど、海の状況を知ることができました。そして、先生の工夫や苦勞など、長年実際に研究を、積み重ね



活動の様子 1

られている先生のお話は、貴重な体験の数々でした。さらに当日は、より深く学べるようにポートフォリオ形式の記入用紙なども大濱先生のアドバイスがありました、柏井さんの準備のおかげで、生徒は中身の濃い時間を過ごしました。

このように地域の方と関わり、活動に参加する中で学び育つことを、今の教育現場では重要に考えています。

この夏休み中に他のグループもお話を聞かせていただいたのですが、講師の先生が溝田先生、殿河内さん、村上さん、久保田さん、環境衛生連合会のみなさんなど、エコプラザに関わる方が多く、まちなか環境学習館銀天エコプラザは人材や経験の宝庫だと感じております。

未経験なことの多い生徒ですが、経験豊かなみなさんからのお話、技術や知恵を伝えてくださることが、将来の人生の幅

を広げていく発見やきっかけ作りに繋がるので、取組を今後とも継続していければと思います。

この夏の経験をもとに2学期からの探究学習を生徒たちは深めて行きます。



活動の様子 2

「田んぼが減って思うこと」

うべ環境コミュニティー 中野 芳和

吉部に勤務していたころ、春が近づいてくると、まず「梅」、次は「桜」と花の時期が続きとても楽しかった。車窓から山間に見える「ハクモクレン」は着物の柄のようにとても綺麗です。

吉部地区は宇部市の北部に位置し、美祢市に隣接した自然が豊かな地域

です。田んぼで稲が育って行く様子もとても綺麗で、田植えが終わると一面が緑色に変わり、稲が育っていくと黄色、そして、秋になると稲穂が垂れて黄金色という感じです。

しかし、吉部地区でも田植えを行わず、そのままになっている田んぼが、あちこちに見られるようになりました。本当に、あっという間に一面に雑草が生い茂り、



荒滝山



旧船木鉄道敷跡に咲く桜

ここにあの綺麗な田んぼがあったのかと思うほどに変わってしまいます。

宇部市の水稻の作付面積を調べてみると、令和2年が1,020ha、令和5年が920haと減っています。農林水産省の水稻の年次別推移（全国）を見ても、令和2年の作付面積が、1,575,000ha、令和5年は1,531,000haと減っています。

田んぼの面積が減っている理由について、農林水産省は「田んぼをなくして、工場や住宅などの農業以外に使うようになったり、農家が農業をやめることにより、田んぼが荒れてイネを育てることができなくなってしまった土地が増えたりしかたらず。」と説明しています。

農家が農業をやめて、田んぼが減っていくと、大雨の水がそのまま一気に流れて、下流に災害を引き起こすかもしれません。また、

用水路や溜め池の管理も難しくなります。

日本の食料自給率はカロリーベースで38%とわれていますが、田んぼが減っていくということは、食料の確保という問題にとどまらず、防災面や地域の自然を守り綺麗な景観を維持していくことから、考えて行かなければならない大きな問題だと思いました。



大柵トンネル